

## ご挨拶

東京都高等学校文化連盟写真部門会長  
東京都立多摩高等学校長 常國 佳久

### 第39回東京都高等学校文化祭 写真部門中央大会に寄せて

「時代の大きなうねりの中で」

皆様、東京都高等学校文化祭写真部門中央大会にようこそ。

今大会の応募校数は52(昨年51、一昨年57)。応募作品総数856(昨年920、一昨年889)。そのうち入選作160(昨年180、一昨年146)点を展示しました。増減はありませんが今回も高止まり状態が続いています。応募してくれた高校生諸君、ご支持いただいている皆さま、本当に有難うございます。

さて、時代は大きく転換し始めています。10年後、20年後どころか、数年後の世界・社会が読めないような時代に突入したようです。日本でも(社会的な)パラダイム・シフトが起きていると言われるようになってきました。

このように、社会が流動化する、あるいは大きく変化する。将来にも存在し続けると疑わなかったものが、消えていったり、価値が入れ替わったりする時代です。

だからこそ、この時代の今を捉え、写し取り、記録する。いや、写真という手段で今という時代に主体的に関わろうとする。言い換えると、写真媒体を通じて個性を表出する。つまり、自分という人間が立ち現れる。

自分で主体的に写し取った方が楽しいに決まっている。

誰もがスマホやゲーム機で世の中を写し取り、記録する。そうしてそれらほとんどは消費され消滅していきます。しかし、そのおびただしい数の中から時代を切り取るような一枚が撮れるかも知れません。高校生諸君、今日もカメラを持って、世の中に飛び出し、被写体を借りて、自分を写し取ろうではありませんか。

最後に、各校の顧問の先生方、理事の皆さん、教育委員会、ご指導いただいている写真業界のご専門の方々、会場までお越しいただいた皆様等、ご支援いただいております皆様方、これからもどうぞよろしく願いいたします。